

公益財団法人 日本サッカー協会
2017年度 第7回理事会

決議事項

1	<p>日本人指導者海外派遣の件</p> <p>(決議) 資料No.1</p> <p>アジア貢献事業の一環として、以下の派遣に関し、指導者本人及び派遣先協会と新規契約を締結したい。</p> <p>指導者：馬場 源徳（ばば もとのり）</p> <p>派遣先協会：トルクメニスタンサッカー連盟（TFF）</p> <p>資格：AFC フットサルライセンス レベル1（2016年取得）</p> <p>役職：フットサルトルクメニスタン代表 GK 兼フィジカルコーチ</p> <p>契約期間：2017年8月15日～9月30日</p> <p>費用負担：[JFA] 給与、傷害保険料 [TFF] 住居、国内移動車両、日本-トルクメニスタン間の航空券（帰任1往復）</p> <p>略歴：添付別紙の通り</p> <p>実施理由：昨年より、TFFにフットサル代表監督として中村恭平氏を、アシスタントコーチとして前川義信氏を派遣している。同代表チームの日本合宿に参加した馬場氏の指導力を高く評価したTFFから、この夏、トルクメニスタンで開催される「アジアインドアゲームズ」に向け、約2カ月限定で同氏の派遣の依頼があった。</p>
2	<p>JFA ロングパイル人工芝ピッチ公認規則改定の件</p> <p>(決議) 資料No.2</p> <p>JFA ロングパイル人工芝ピッチ公認規則を別紙の通りに改定したい。 6月23日に開催された施設委員会にて承認された。</p>
3	<p>JFA ロングパイル人工芝 競技会における利用の件</p> <p>サッカー競技規則の第1条に従い、本協会が主催する全国レベルの公式大会における人工芝フィールドの利用について、以下の通り変更したい。</p> <p>本協会が主催する国内競技会において競技のフィールドに人工芝フィールドが用いられる場合、その表面はFIFAサッカー芝クオリティプログラム(FIFA Quality Programme for Football Turf)、または国際試合基準(International Match Standard)、もしくは「JFA ロングパイル人工芝公認ピッチ」の要件を満さなければならない。</p> <p>なお、人工芝フィールドの利用については各競技会規定もしくは施設基準等に記載するものとする。<u>ただし、本協会が主催するユース年代のリーグ戦、年長者、グラスルーツの競技会における人工芝フィールドの利用及び本協会から特別な適用免除を受けた場合はこの限りではない。</u></p>

※免除対象となる理由

ユース年代（2種・3種・4種）のリーグ戦を推進するにあたり、ホームアンドアウェイ方式の公式試合において、学校等が所有する人工芝フィールドの利用と年長者、グラスルーツの競技会に積極的な利活用ができるようにするため。

・ 前回決定事項（2011年度 第11回理事会）

本協会が主催する国内競技会において人工芝フィールドを利用する場合は、「FIFAサッカー芝品質コンセプト 認証フィールド」、または「JFA ロングパイル人工芝 公認ピッチ」とし、各大会実施委員会、各種大会部会、各連盟にての協議を経て、理事会にて承認を得た上で各大会の実施要項等に記載するものとする。ただし、本協会主催の育成年代のリーグ戦における人工芝フィールドの利用についてはこの限りではない。

※育成年代のリーグ戦を除外する理由

育成年代（2種・3種・4種）のリーグ戦推進にあたり、学校等が所有する人工芝フィールドをホームアンドアウェイ方式の公式戦において、積極的に利活用できるようにするため。

《参 考》

サッカー競技規則 第1条 競技のフィールド

1. フィールドの表面

競技のフィールドは、全体が天然、または、競技会規定で認められる場合は全体が人工の表面でなければならない。ただし、競技会規定で認められる場合、人工と天然素材を組み合わせたもの（ハイブリッドシステム）を使用することもできる。

人工芝の表面の色は、緑でなければならない。

FIFA 加盟サッカー協会の代表チームまたクラブチームの国際競技会のいずれの試合においても人工芝のフィールドが用いられる場合、その表面は FIFA サッカー芝クオリティプログラム（FIFA Quality Programme for Football Turf）または国際試合基準（International Match Standard）の要件を満たさなければならない。ただし、FIFA から特別な適用免除を受けた場合は除く。